

『紡ぐ』

2020.11.1 第13号
発行 教育相談室「あした塾」

選手は指導者の器
の範囲でしか育てない



(西村克也さん)

「選手は指導者の器の範囲でしか育てない、これは元プロ野球選手・監督の西村克也さんの言葉です。名言です。10数年前、週刊誌のインタビュー記事で目にしました。そこから鮮烈でした。この言葉はスポーツ選手だけの話ではありません。会社の上司、役場の上司、学校の先生、そして親しい人との通じる言葉です。

「部下がパシといけない」。これは部下の資質がないのか。「選手が全く伸びない」。これは、選手の才能がないのか。「改善点がない。成績点あります」。これは子どもが悪いのか。指導者は(上司立ちは、上手は先生は、親は)、自分の器ほどの程度のものかが知らなければなりません。常に自分の器を大きくする努力を続けていく才行いんですね。(T)

「紡ぐアンケート」から

かくかくする水

「町当局や議員が皆さん水頑張ってほしいこと」という問い合わせ。「広報にいくつかのテーマで3年後と5年後の町の議員さんの夢を掲載してほしい。町民アンケートだけではなく、議員さんのも聞かせてほしい。」かくかく(する)水口のテーマで。町を歩く人が樂くなるというよりは他の市町と並ぶことでの樂しき。(能登町や柳田松波門前や輪島など)いわば「合併なければ良か水」などの言葉を聞きます。」(略)

「紡ぐアンケート」は町民の皆さん、浜町内会長、議員の皆さんへ3種類で行なわれます。議員さんは3名しか返ってきていませんが。これからもお頼みいたいです。

紡ぐアンケートについて

これまでに回答を寄せてくれた方たちに感謝しています。このあたりも寄せてください。回答の中身については可能な限り「紡ぐ」に掲載させていただきおしゃべりをまとめた町や議員の皆さんに伝えていきたいと思います。



(能登大仙ゆき)

「紡ぐ」の存在は大きいとの言葉もありました。ありがとうございました。

お、「里山や荒山でいる。などとか...」という回答が多くありました。

(後日掲載)

こころまた

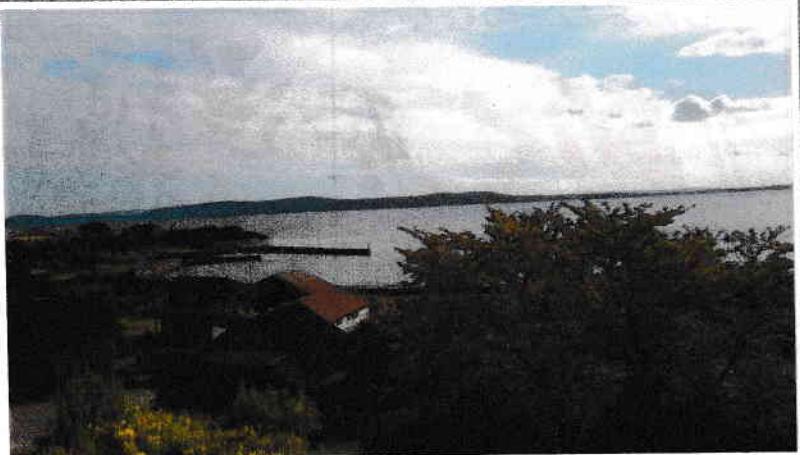
力のない 世界

自然豊かな穴水町。いくつもの
素晴らしい風景を見ることができ
ます。そこで住む私たちには当たり前すぎる日常で、初価値に気がつくことが多
いのです。

“森林アート”¹、² “こもだ水”³ こもだ水の財産では無いですか！？ とい
うことでのお薦めスポットを紹介をさせて

その一つが、鹿波白山神社前からの風景です。鹿波白山神社は、現在工事中の鹿波バ
イパス沿いにあります。眼下には鹿波の集落。そしてごく最近能登島があります。晴れた
日、ゆっくり眺めさせてはどうでしょうか？

(鹿波白山神社前からの風景)



(能登ワイン・アドウ畠)

“能登ワイン展望台から見るワイン畠のパノラマは絶景
です。”とお薦めの回答が。平日の午後出かけられ
ました。残念ながら、どんな理由からか展望台にはカ
ギがかけられています。展望台からの絶景、は見る
ことができませんでしたが、地上からの風景もまた、存
在感のある素晴らしいものでした。5年前に中学生3年
生は、卒業・成人式を迎える。自分収穫したドウ
を造って、自分で置きのワインを味わう時の新成人の
気持ちを想つと今からワクワクしませんか。」とあります。
ところで、観光客も数組来ていきました。展望台、ほとんど
利用ませんでした。

(Yさんおすすめ)



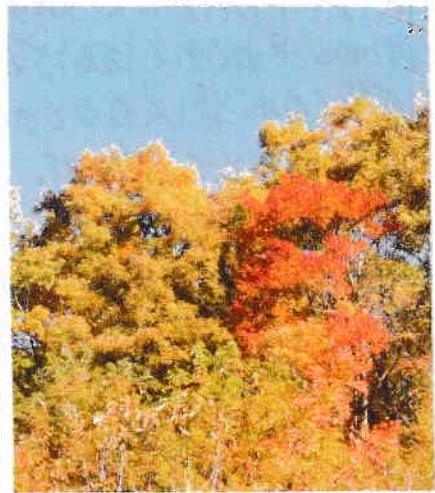
山粒ふ

(やまご)

“山粒、秋の季語で穴水
町のあちこちの山も深まり秋
の風景になってきています。

山粒は生きとい生けるものため
(高橋 将夫)

「色絵具ぶらまわせやう 秋の山」
(柴田 靖子)



(藤巻 地内)